

災害から町民の命を守るために

令和6年元日に発生した「令和6年能登半島地震」では、最大震度7を観測し石川県能登半島を中心に土砂災害や火災、家屋の倒壊など甚大な被害をもたらした災害となりました。川島町でも震度5強が想定されている「東京湾北部地震」や「茨城県南部地震」も併せて大変危惧されているところです。

また、近年、台風や線状降水帯などの豪雨による水害についても全国各地で発生しており、川島町においては、発生から5年が経過しましたが、町内の一部で浸水被害をもたらした令和元年東日本台風（台風第19号）については記憶に新しいところです。

町では、国や県、近隣市町などの関係機関と連携し「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」を推進し、都幾川や越辺川、入間川の河道に堆積している土砂の撤去や樹木の伐採、高台避難場所の整備など、水害から町民の皆様の命や財産を守るため、水害対策に取り組んでいます。

この度の「川島町洪水・地震ハザードマップ・ガイドブック」の改訂は、避難情報として発令される避難勧告が廃止され避難指示に一本化されたことや、新たに町が水害発生時の施設提供に関する協定を締結した町外の広域避難場所を追加した内容となっております。

本ハザードマップについては、自然災害が発生した場合に、どのような行動を取るかなど、日頃からの備えとしてご活用いただければ幸いです。

令和7年（2025年）4月吉日



川島町長 飯島 和夫

川島町 洪水・地震 ハザードマップ・ガイドブック もくじ

はじめに 3

洪水

- 荒川が決壊したらどうなる 4
- 荒川及び入間川流域の氾濫浸水は長期化 5
- 荒川以外の河川が氾濫したら 6
- 家屋の倒壊は 7
- 洪水のおそれがあるときは町外への避難を 8
- いつ逃げる？ 避難情報は？ 9
- 洪水時の町外と町内の避難先 10
- 洪水ハザードマップ 12
- 各地区の洪水ハザードマップ
 - 中山地区 14
 - 伊草地区 16
 - 三保谷地区 18
 - 出丸地区 20
 - 八ツ保地区 22
 - 小見野地区 24
- 内水氾濫への備え 26
- 情報を入手しよう 27
- 避難のため日頃から備えましょう 28
- 避難のための持ち出し品 29

地震

- 川島町の地震想定 30
- 震度マップ 31
- 液状化危険度マップ 32
- 建物倒壊危険度マップ 33
- 地震防災マップ 34
- 地震が発生したときの避難行動 36
- 地震への備え 37
- 「マイ・タイムライン」を作ってみよう！ 38
- 主な防災関係機関等一覧 40

はじめに

ハザードマップは、地震・台風・集中豪雨などの自然災害の危険性を伝え・知るための地図のことです。町や町民のみなさんが想定される災害に取り組むための基礎情報となります。

防災ガイドブックは、災害の危険を予測したハザードマップに基づき、日頃の備えや避難行動・避難場所など、被害の回避・軽減の対応方法を示したものです。

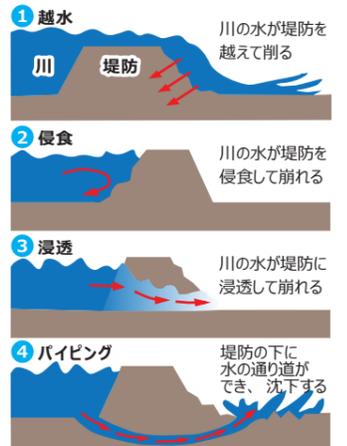
洪水について

私たちが暮らす川島町は、荒川をはじめ都幾川、越辺川、入間川及び市野川など四方を川に囲まれ、平坦な地形をした町です。そのため、過去には台風や豪雨により、家屋の浸水や田畑の冠水等の洪水被害を受けてきた経緯があります。

近年では、全国各地で短時間に100mmを超す降雨がたびたび発生し、これによる洪水被害も多発しています。令和元年東日本台風（台風第19号）により、各河川の上流では500mmを超える大雨が降り、その影響で本町においても住家の床上・床下浸水、一部損壊、業務施設や店舗での浸水等の被害が発生し、町民の約3,000人が町内の避難所へ避難しました。

これらは、地球温暖化による気候変動に起因しているといわれています。また、荒川が決壊・氾濫した場合、国のシミュレーション（荒川上流河川事務所浸水想定区域図）によると、本町の全域が浸水（3m～10m未満）すると想定されています。このような状況を踏まえ、町の大雨・洪水に対する取り組みは、重要かつ喫緊の課題で、町はもとより町民・地域・関係機関が一体となって取り組む必要があります。

堤防決壊の4つのパターン



2019年10月14日 台風第19号における荒川の状況
(写真提供：国土交通省 荒川上流河川事務所)

●これまでの主な水害

発生年月	風水害名	川島町の被害状況
明治43年（1910年）8月	-	堤防総越水、小見野村地内に数ヶ所の決壊、川島領全領泥海と化す
昭和22年（1947年）9月	カスリーン台風	釘無40m破堤、曲師40m破堤、浸水831戸、田畑78町歩
令和元年（2019年）10月	令和元年東日本（台風第19号）	正直、戸守、上格地区 住家床上浸水3件、住家床下浸水7件、水害農地面積41,297㎡

地震について

本町に大きな被害をもたらした主な地震として、関東大震災、西埼玉地震、東日本大震災があげられます。特徴として、他市町村に比べ人口規模と比較すると、被害を受ける割合が高くなっています。これは、川によってつくられた地盤の弱い土地で、地震時には揺れやすく液状化を起こしやすいことが要因の一つと考えられています。

今後、本町に大きな被害をもたらす想定地震として、関東平野北西縁断層帯地震があげられています。この地震の発生確率は低いですが、発生時の被害は甚大とされることから、日頃から減災に向けた取り組みを進める必要があります。



2016年4月 熊本地震による益城町寺迫地区の被災状況
(写真提供：熊本県益城町役場)

●これまでの主な地震

発生年月	地震名・規模	川島町の被害状況
大正12年（1923年）9月	関東大震災 規模M7.9、震源地：相模湾	全壊359戸、半壊353戸、死傷者8名
昭和6年（1931年）9月	西埼玉地震 規模M6.9、震源地：深谷市	全壊2戸、半壊2戸、破損401戸、死傷者1名
平成23年（2011年）3月	東日本大震災 規模M9.0、震源地：三陸沖	住家の屋根瓦の一部破損408棟、その他63件（ブロック塀の倒壊、物置外壁の亀裂及び剥離等）鳥羽井沼の駐車場の一部で液状化、護岸の一部崩落